



北区立八幡小学校 ことばの教室
TEL・FAX (5963) 4521
令和7年11月25日 NO. 5

気が付けば日も短くなり、少しずつ冬の訪れを感じるようになりました。今年も残すところ1か月となり、新しい年を迎えようとしています。4月からの子供たちの様子を振り返ると、できるようになったこと、楽しかったこと、一緒に悩んで相談したことなど様々な場面が思い浮かびます。

新年を迎える前に、ことばの教室での学習についても振り返りを行います。どのような目標をもち、どのようなことを共に頑張っていくのか、来年に向けて一緒に考えて指導を進めていきます。

<今後の予定>



3日(水) お話グループ② 13:45~14:45
17日(水) 個別指導終了
26日(金) 冬季休業日始



7日(水) 冬季休業日終
8日(木) 個別指導開始



転居等のお知らせについてのお願い

10月末~11月の面談期間では、来年度の通級の継続や今後の指導方針などについて話をさせていただきました。

今後、転勤や転居などのご予定がある際は、在籍校への連絡と同様に、ことばの教室にも分かり次第できるだけ早くお知らせいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

吃音ガイダンスを開催しました。

八幡小学校ことばの教室では、ここ数年、年に1回、吃音の理解啓発を図る「吃音ガイダンス」を開催しています。今年度は10月21日に、講師に吉田雅代様をお迎えして、保護者12名、北区言難学級担任18名が参加し、お話を伺いました。



吉田雅代様は、吃音をもつ子供の保護者として吃音の理解啓発の活動に取り組んでこられました。主な活動は吃音のDVD、本、新聞などの取材協力、言語聴覚士の養成校の授業、都内ことばの教室専門研修の講師、都内ことばの教室での保護者会の講師などです。

八幡小学校校長による開会の挨拶、講師紹介の後、参加者が「学校、学年、名前」「今日、聞きたいこと」を発表し、自己紹介をしました。「中学校で環境が変わったときの心構え」「思春期の子供との関わり方」等、卒業後の話を聞きたいと思っている方が多くいました。

[ガイダンスより]

- ・近年マスメディアで吃音を取り上げられる機会が増えていることもあり、吃音の理解も広がっているはずだが、当事者、保護者の悩みは10年以上前と変わっていないようだ。
- ・「家では吃音の症状が出やすい」と悩む保護者もいるが、家庭でありのままで何でも話せるのは良いこと。
- ・吃音の有無にかかわらず、思春期は一人で抱えてしまうことが多い。ずっと大切な存在で1番の味方だということ、困ったときはいつでもサポートすることを伝え、何でも先回りして手を出すのではなく目をかけていることが大切。
- ・子供も保護者も吃音を正しく理解しておくこと。子供が自分で伝えることが難しいなら学校側には正しい理解、適切な対応を含め状況を説明した方が良い。
- ・同じ症状の吃音でも本人の思い、考え方は人それぞれ。1番重要なのは本人がどうしたいか、本人にとって何が大切かということ。
- ・人はみな違うこと、他人を受け入れ認めること、いつでも相手の立場に立って考えること、人を傷つけたり否定したり嫌がることをしないこと、吃音のことに限らず人としてすべき当たり前のことの中のひとつにすぎない。
- ・保護者自身が悩みを一人で抱えてしまわないように。
- ・吃音のある子供のために保護者ができることは「子供に対し、条件なしの自己肯定感をはぐくみ、吃音について学びながら、色々な人のサポートを得て、子供の幸せのため長期的な視野に立ちつつ、子供の成長に沿って、保護者として『今できること』をコツコツと積み重ねていくこと。」、国立障害者リハビリテーション学院、言語聴覚士養成校の先生からのお話。

子供との関わり方、保護者としての心構え、進学後の見通しなど、多くのことを知ることができました。会場には、吃音に関する書籍、リーフレットを紹介するコーナーを設けました。ガイダンス終了後は、参加者が書籍、リーフレットを見たり、吉田様と個別に話をしたり、保護者同士で話をしたりして、有意義な時間をもつことができました。



<感想> 出席された方の感想を、一部ご紹介します。

- ・小学校を卒業して、どのように関わっていったらよいか不安でしたが、本人の気持ちや希望を聞いて、それをまず尊重してあげながら、親として今できることをしてあげればいいのかと思いました。
- ・特に印象に残っているのは、「吃音の何を知ってほしいのか？」というフレーズです。日頃モヤモヤすることがあっても、そこに返れば自分の頭の中も整理されるような気がしました。
- ・子供が自分から話をしてくれなくなるような時期が来るかもしれません。家では話をしやすいような雰囲気、環境を作り、子供の様子に気を配っていきたいと思います。
- ・中学進学のエピソードが聞いて良かったです。本人に吃音を正しく理解させることが、本人の選択肢を増やしていくことにつながると知り、良かったです。本人も最近、知ろうとしていると思います。
- ・その時々で向き合い方も変わるので、子供の気持ちに寄り添いつつ陰ながらサポートしていければいいなと思います。
- ・周りにロールモデルとする方が見つからない中で、先生のお話を伺って、少し先の見通しというか心構えができたように思います。本当にありがとうございました。
- ・家では親子でありのままでいられる、いつでも気軽に吃音のことを話せる環境を大切にしていきたいです。話せる親子関係があれば大丈夫ということばに勇気をもらいました。